

我々は二重人格なのか、三重人格なのか分かりませんが物事些細な事でも行動するには自分の中で自分が決定権を持って居ると思っ  
ていますが、どの自分が決定を下したのか解りません。例えば汚された公衆便所ではすぐ敬遠し、次なる便所を探しましょう。迷わなければ自分一人だと言えます。私の小さい頃よく聞いた話ですが**子供を孕んでいる時に公衆便所の掃除をする**と**難が無く心の綺麗な子が生まれてくると聞かされました**。我が家にあつてなら、家族あるいは自分が気持ちよく用を足すために、ピカピカに便器を磨き上げる事でしょう。汚いから勿論掃除をする分けですが、時に悩むのは拒否反応を起こす自分もいる事です。色々の場面で行こか、やめよか、やるか、やめよか。決断の戦いがあります。自分の中に自分が何人もいるからです。人間が楽と効率を追求し、多くを機械化した結果やがて機会に浸食され多くの人間が不要になつてしまひ失職したのです。子供を産んでも将来に希望が見えなければ子供を生み育てようとはしませんが**子供は授かるから作るに変わりましたから**。職も**天職から転職**に変わる、事に希、何人かの自分で協議する事に成ります。**縁を頂くのか、縁を切るのか、その判断が自分で出来ますか、佛の加護は必要ないですか。** 悔む事無き様に。佛様の目的は衆生済度、悩む凡夫の救済です。

寺田 透氏訳の道元に 大自然と人間とは一体で、すべてがこの世ではつながりあつている。鼻が眼の仏教的教化に当たり、眼が耳の仏教的教化に当る。人間の六根 五つの知覚と一つの精神機能)が相互に活用しあい、それにてそれらの対象たる現実が落ちこぼれなく全部現実化される」と、六根とは眼・鼻・耳・舌・身・意のことです。自然現象には元来意識はないのだ。と

**お経に「不増不減」とあります。増やさず、減らさずが一番大切という事です。** 血圧や血糖値で見ればすぐ判ります。上がった、下がったと一喜一憂です。身体、即ち、健康状態を良に保つには心身共に「不増不減」で無くてはならないのです。人生街道、波荒れるも長く続かず。強風吹くも長くは続かず。必ず穏やかに収まるものです。如何なる事態に遭遇するも、時を失する事なき様にと願うばかりです。

先祖供養の時期に望みますのは、終焉の式場選びは特に大切にしたいのです。**葬儀のやり直しはできないからです。** 選んでほしくない葬儀社もありますので事前にお問い合わせ下さい。葬儀社は場所の提供だけで儀式の口出しはできません。最近では家族葬が増えてまいりましたが儀式には弔問者の人数は関係ありませんし、儀式の略式もありません。儀式はご本尊様に対して新霊を極楽に迎えて頂く為に致します。ですから、葬儀式は 寺の本尊様の前でさせて頂くのが最も良い形です。 松原泰道師は人生を送る発想を

3 K **希望・工夫・感動**と決めると良いと示されました、一計です。

盆大施餓鬼法要は二十六日です。

七月一日

善入院油掛地藏尊